

---

日本原子力学会 再処理・リサイクル部会

第29回全体会議

2015年 9月11日(金) 12:20 ~

# 議事次第

---

## 再処理・リサイクル部会 第29回全体会議

1. 部会長挨拶
2. 運営体制について
3. 2015年度活動報告及び活動計画について
4. 2015年度予算計画について
5. 部会規約等の改定について

# 部会長挨拶

---

再処理・リサイクル部会

部会長 藤田 玲子

# 運営体制(2015. 9) 2015年度より新体制

	氏名		分担
部会長	藤田 玲子	(JST)	
副部会長	森田 泰治	(原子力機構)	
運営委員	渡邊 大輔	(日立)	庶務
	津幡 靖宏	(原子力機構)	庶務
	佐藤 聡	(三菱重工業)	会計
	塚原 剛彦	(東京工業大)	会計
	林 眞一	(関西電力)	企画 (学会企画セッション、部会セミナー)
	飯塚 政利	(電中研)	企画 (学会企画セッション、部会セミナー)
	稲垣 八穂広	(九州大)	企画 (国際WS、ぎんぎんセミナー)
	佐々木 良一	(三菱マテリアル)	企画 (部会セミナー、国際WS)
	岡村 信生	(原子力機構)	企画 (ぎんぎんセミナー、部会セミナー、部会HP)
	澤田 佳代	(名古屋大)	企画 (学会企画セッション、部会セミナー)
	鷹尾 康一郎	(東京工業大)	企画 (学会企画セッション、ぎんぎんセミナー)
	大西 貴士	(原子力機構)	広報 (ぎんぎんセミナー、部会セミナー)
	立花 武憲	(日本原燃)	広報 (部会セミナー、ぎんぎんセミナー)
	秋山 大輔	(東北大)	広報 (国際WS、学会企画セッション)
	大村 恒雄	(東芝)	広報 (学会企画セッション、国際WS)
	武田 和仁	(東京電力)	広報 (六ヶ所情報、部会セミナー)
	坂 宗範	(日本原燃)	広報 (六ヶ所情報、部会セミナー)
	野上 雅伸	(近畿大)	広報 (学会企画セッション)
	日山 伸行	(原子燃料工業)	広報 (部会セミナー、国際WS)

2015春の年会以降、5名が交代

# 運営体制(2015. 9)

---

顧問: 竹内哲夫(元原子力委員会)、近藤駿介(元原子力委員長)、田中 知(原子力規制委員会)、井上 正(電中研) 以上 4名

参与: 野村茂雄、小山智造、峯尾英章、天野 治、駒 義和、藤田雄二、松村達郎、小泉 務、小山真一、加瀬 健、梅田 幹(原子力機構)、鈴木一弘、鈴木一雄、富田邦裕、向原 進、徳森律朗、山澤正俊、[中熊哲弘\(東京電力\)](#)、子安徹人、赤澤 孝、[木地俊太\(関西電力\)](#)、西村友宏(電中研)、池田泰久(東工大)、松本史朗(JNES)、田辺哲朗(九大)、山名 元、白井 理(京大)、山村 力、[佐藤修彰\(東北大\)](#)、浅沼徳子(東海大)、鈴木達也(長岡技科大)、倉重有幸(原燃工)、半沢正利、大場一鋭、染谷 浩、[太田和明\(三菱マテリアル\)](#)、有田裕二(福井大)、森 行秀、黒田一彦(三菱重工業)、深澤哲生、星野国義、鴨志田 守(日立GE)、山田和矢、多賀純一(東芝)、中村裕行、加納正規、[齋藤 巖\(日本原燃\)](#)、波多野 守  
以上 48名

# 2015年度活動報告及び活動計画

---

## 年間スケジュール

---

- 5月15日 運営小委員会・・・平成27年度活動・予算計画 他
- 7月 8日 運営小委員会・・・ぎんぎんセミナー準備状況 他
- 9月11日 第29回全体会議（於 2015秋の大会, 静岡大）
  
- 9月21～24日 GLOBAL2015(於 フランス)
- 9月29～30日 第7回ぎんぎんセミナー（於 青森原燃テクノロジーセンター）
- 10～11月頃 運営小委員会
- 12月11日 第11回再処理・リサイクル部会セミナー(於 東工大)
- 2月 運営小委員会, H27年度部会賞決定
- 3月 第30回 部会全体会議（於 2016春の年会, 東北大）
- その他 課題議論WG, シビアアクシデント研究WG, テキスト作成WG
- その他 GLOBAL若手支援, 国際会議ANUP2016準備, ポジションステートメント改定、部会内規改定

# 2015年度活動報告及び活動計画

---

## 第7回ぎんぎんセミナー

---

- テーマ : 再処理における基礎・基盤技術(座長:鈴木 達也 長岡技科大教授)  
日時 : 2015年 9月29日(火)~30日(水)  
会場 : 青森原燃テクノロジーセンター(東北町)  
内容 : 日立、日本原燃、東工大、東北大、原子力機構の研究者、技術者による講演と討論を予定

学生参加者には交通費を助成

## 第11回再処理・リサイクル部会セミナー

---

- テーマ : 社会のニーズに対応した核燃料サイクル技術の研究基盤の形成と人材育成  
日時 : 2015年12月11日(金)  
会場 : 東京工業大学 蔵前工業会館  
内容 : 東京電力福島第一原子力発電所の事故により、社会から要求される原子力技術が変化したことに対応した、核燃料サイクル技術の研究基盤の形成と人材育成に関する講演等を予定

学生参加者には交通費助成を検討

# 2015年度活動報告及び活動計画

---

ANUP2016国際会議（仙台, 2016年秋）



## Asian Nuclear Prospects

**Nuclear Fuel Cycle for Sustainable  
Energy Supply and Human Prosperity**

継続的なエネルギーの供給と人々の繁栄のための核燃料サイクル

**2016年10月23日～27日  
東北大学 川内萩ホール（仙台市）**

ANUP2016では、エネルギー需要増の大きいアジアから、原子力発電を継続的に拡大すること、および燃料サイクルの重要性とそれを実現する原子力技術について議論し発信することを目的とする。原子力エネルギーによる長期的な持続性確保に向けた展望を議論したい。



# 2015年度活動報告及び活動計画

## ANUP2016国際会議（仙台, 2016年秋）



### ANUP2016トピックス

1. 原子力エネルギーの展望 - 各国の状況・展望等
2. 原子力利用のための基礎研究
3. 現行燃料サイクルシステム
4. Generation IVの原子炉と燃料サイクルシステム(分離変換技術を含む)
5. 放射性廃棄物管理
6. 核不拡散と安全保障
7. 廃炉と解体: 福島第一を含む

### スケジュール(予定)

WEBサイト開設	2015.10.31
拡張要旨募集締切	2016. 3.31
受理通知	2016. 5.31
早期参加登録締め切り	2016. 7.31

### 開催日程

2016.10.23	レセプション
2016.10.24	全体会合、技術会合(～26)
2016.10.27	施設見学会 (六ヶ所核燃料サイクル施設)

**主催** : 一般社団法人 日本原子力学会

**共催** : 中国原子力学会、インド原子力学会、韓国原子力学会、  
(予定) 米国原子力学会FCWM部会、欧州原子力学会、フランス原子力学会、IAEA

# 2015年度活動報告及び活動計画

## ANUP2016国際会議（仙台, 2016年秋）



### ● 組織委員会(13名)

第1回(7/28)

委員長 藤田玲子(JST, 部会長),  
副委員長 森田泰治(JAEA), 小山正史(電中研)

### ● 国際諮問委員会(20名)

Chair 井上 正(電中研),  
Co-chair V. Rao(インド), G. Ye(中国), G. I. Park(韓国)

2015.10 WEBサイト開設予定!  
多数のご参加をお願いします。

### ● 実行委員会(34名)

第1回(7/2), 第2回(8/27)

委員長 深澤哲生(日立GE),  
副委員長 小山正史(電中研), 兼平憲男(JNFL)

### ● 準備委員会

第1回(2/6), 第2回(4/9)

# 2015年度活動報告及び活動計画

---

## 課題議論WG

---

- 現在の日本の再処理あるいはもっと大きな視点で、核燃料サイクルが抱える課題を明確にすると共に、再処理あるいは核燃料サイクルのあるべき姿を議論し、学会として社会に提言すべく活動を行っている。
- 「原子力全体を見たときに、再処理の持つ役割は何か？」
  - ・核エネルギーの必要性
  - ・原子力には課題があるという認識
  - ・サイクルの中での再処理の位置づけ
  - ・エネルギー資源の有効利用と環境負荷低減
- 議論の内容を、再処理リサイクル部会セミナーで紹介、あるいはポジションステートメントとして、社会に対し発信することを目指している。
- 課題議論WGでは、議論をする中で、再処理のミッションの再定義が必要ではないかとの結論に達し、現在、再定義の作業を行っている。

# 2015年度活動報告及び活動計画

---

## シビアアクシデント研究WG

---

- 福島第一の事故の教訓を踏まえ、核燃料サイクル施設の科学的合理性に基づいた安全性向上に役立てることを目的とし、SA研究WGを2013年4月に設置し、2014年9月に第1フェーズの活動を終了した。
- 第1フェーズの成果を「核燃料サイクル施設における対応を検討すべきシビアデントの選定方法と課題」と題して部会HP上に公表するとともに、その概要を解説記事として日本原子力学会誌 ATOMOS 2015年5月号に掲載。
- 第1フェーズで抽出された課題を検討すべく、2015年4月より第2フェーズとして、再処理施設で発生が想定し得る事故の影響評価方法に関する現状整理、課題の把握及び解決方法について、客観的かつ専門的視点から検討を開始している。

# 2015年度活動報告及び活動計画

---

## テキスト作成WG

---

- 燃料サイクルに関するテキストは既にいくつかあるが、学会として情報発信したものがないことから、学会という中立・公正な立場で燃料サイクルに関する最新の技術の解説を主としたテキストを作成する。
- Phase I に引き続き、核燃料サイクルの技術の詳細及び最近の技術動向を網羅する Phase II の活動を進めている。
- Phase II トピックス：
  - ・サイクル施設における重大事故対策
  - ・トリウム燃料サイクル
  - ・熔融塩再処理
  - ・分離変換(意義、技術、高速炉／ADS)
  - ・福島第一の廃炉廃棄物、汚染水
  - ・国内外の政策、動向
  - ・高速炉燃料再処理
  - ・核燃料の直接処分

# 2015年度活動報告及び活動計画

---

## ポジションステートメントの改定

---

- 学会 ポジションステートメントWGより2件の改定依頼(2015年3月)
- 依頼の内容に応じた改定方針を定め、現在、改定案を検討中。
  - 事務局案作成
  - 運営小委員会、部会参与からの意見を反映 (～9月11日)
  - 全部会員からの意見を反映 (～9月下旬)
- 課題議論WGの内容の反映は、別途検討したい

## GLOBAL2015国際会議(フランス, 2015年9月)

---

テーマ : 21st International Conference & Exhibition :  
"Nuclear Fuel Cycle For a Low-Carbon Future"  
日時 : 2015年 9月21日～24日  
会場 : Le Palais des Congrès de Paris

- 若手発表者 2名に対し、渡航支援を予定。

# 2015年度予算計画

	項目	予算(円)	2014年度(円)	比較増減(円)	内 訳
収入の部	収入				
	一般正味財産				
	1. 本部予算(配分金)	250,000	250,000	0	
	2. 独自事業予算	1,500,000	1,500,000	0	部会セミナー、ぎんぎんセミナー参加費
指定正味財産	3. 繰越金取崩 収入	2,840,000	2,438,000	402,000	余剰繰越金から
	<b>収支 計</b>	<b>4,590,000</b>	<b>4,188,000</b>	<b>402,000</b>	
支出の部	支出				
	1. 本部予算(配分金)				
	・ 会議費	0	0	0	
	・ 旅費交通費	2,550,000	2,140,000	410,000	企画セッション講師旅費、福島特別PJ活動旅費、GLOBAL渡航費補助、課題議論WG・SA研究WG・ANUP2016準備委員会委員旅費
	・ 通信運搬費	3,000	3,000	0	切手、宅急便
	・ 諸謝金	485,000	540,000	-55,000	燃料サイクルテキスト(phase2)執筆謝礼(50万)、企画セッション講師謝金
	・ その他(上記以外)	52,000	50,000	2,000	部会賞副賞
		3,090,000	2,733,000	357,000	
	2. 独自事業予算				
	・ 会議費	700,000	700,000	0	部会セミナー・ぎんぎんセミナー(会場費等)
	・ 旅費交通費	350,000	300,000	50,000	部会セミナー講師旅費、ぎんぎんセミナー学生旅費補助、WG委員旅費
	・ 通信運搬費	20,000	15,000	5,000	宅急便・郵便
	・ 消耗品費	20,000	15,000	5,000	事務用品
	・ 一般外注経費	320,000	340,000	-20,000	セミナーテキスト作成費、マイクロバス
	・ 出展費	0	0	0	
	・ 諸謝金	60,000	60,000	0	セミナー講師謝礼
	・ その他(上記以外)	30,000	25,000	5,000	セミナー副賞、講師・スタッフ弁当、振込手数料
	・ 本部回収額	0	0	0	
		1,500,000	1,455,000	45,000	
	<b>支出 計</b>	<b>4,590,000</b>	<b>4,188,000</b>	<b>402,000</b>	
本部予算収支戻	-2,840,000	-2,483,000			
独自事業予算収支戻	0	45,000			
<b>予算収支戻</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>		
2017年度への繰越金(指定正味財産)		7,578,473	2014年度の¥10,418,473から本年度取崩¥2,840,000を引いた額		

## 再処理・リサイクル部会規約の用語の整理(1/5)

(改定案)

(目的)

第1条 本規約は、組織規程(0103)第5条ならびに部会規程(1002)に基づき設置する再処理・リサイクル部会の組織・運営について定めることを目的とする。再処理・リサイクル部会(以下、「部会」という)は、再処理またはリサイクルに関する研究もしくはそれらの進展・普及等に関する研究・調査活動を支援することにより、再処理およびリサイクルの発展に貢献することを目的とし、設置する。

(運営)

第2条 部会は、その運営および主要な事業について、部会等運営委員会を経て理事会に報告する。

(事業)

第3条 本部会は、その目的に基づき、以下の事業をおこなう。

(1) 定期的に、「部会報」を発行し、部会員の相互交流を深めるとともに、再処理に関わる国内外の情報伝達を図る。



## 再処理・リサイクル部会規約の用語の整理(2/5)

### (改定案)

- (2) 研究会，セミナー，講演会，講習会，見学会等を適宜開催する。
- (3) 再処理等に関わる国内外の関連学協会，諸機関と連絡をとり必要に応じて研究会等を共催する。
- (4) 部会の活動に関連する他部会，研究専門委員会，特別専門委員会等の活動に積極的に協力する。
- (5) 研究，調査および評価等のためのグループを組織して，研究者間の交流と関連分野の研究活動を支援する。また，影響の大きい研究成果等に対しては学術研究的立場からの第三者評価をおこない，国民社会の科学的な認識の向上・啓発に資する。
- (6) 日本原子力学会の年会大会，部会の関与に関する研究会等で発表された部会員の再処理等の研究に関する優秀な論文等について，学会誌への投稿を積極的に激励する。
- (7) その他，適切な事業を適宜実施する。

### (会員資格)

第4条 正会員および学生会員は部会員となる資格を有する。

# 部会規約、運営小委員会内規の改定

要承認

## 再処理・リサイクル部会規約の用語の整理(3/5)

(改定案)

(部会費)

第5条 部会に参加を希望する会員は、学会事務局に所定の手続きをおこなうとともに、会員管理内規(0000-01-01)にしたがって部会費を納入する。なお、退会の際はその旨を学会事務局に申し出る。

(運営組織)

第6条 部会の運営にかかわる重要事項を審議決定するため運営小委員会を設置する。運営小委員会は正・副部長1名および若干名の委員からなる運営委員によって構成される。正・副部長および運営委員は部会員の中から部会員の直接選挙で選ばれる。正・副部長および運営委員の選挙にあたっては、部長の指名する選挙管理小委員会を設ける。運営委員の任期は4月から翌々年3月までの2年間とする。ただし再任を妨げない。

第7条 組織運営のため、運営小委員会の他に、小委員会を設けることができる。

2 各委員は、部長が委嘱し、その状況を必要に応じて部会等運営委員会へ報告する。

## 再処理・リサイクル部会規約の用語の整理(4/5)

### (改定案)

#### (部会全体会議)

第8条 部会全体会議を年1回以上開催し、次の事項を審議する。

- (1) 活動計画および予算
- (2) 活動報告および決算
- (3) 運営体制
- (4) その他、重要な事項

#### (運営費)

第9条 部会は、部会配布金、事業収入、賛助金をもって運営することを基本とする。

- 2 賛助金等小額の外部入金で実施する活動の開始にあたっては、企画委員会での審議を必要とする。また、外部入金の定率を本部管理費として日本原子力学会に収める。

第10条 運営費の予算、決算については、部会全体会議で審議し、部会等運営委員会および理事会の承認を得る。

# 部会規約、運営小委員会内規の改定

要承認

## 再処理・リサイクル部会規約の用語の整理(5/5)

(改定案)

(改定)

第11条 本規約の改定は、運営小委員会の発議に基づき、部会全体会議での審議を経た後、部会等運営委員会および理事会での承認を要する。

(下部規定)

第12条 本規約に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会が別に定める。

附則 (以降省略)

# 部会規約、運営小委員会内規の改定

要承認

## 複数名の副部長選出の選択肢追加等(1/2)

(現在の部会規約)

第6条 部会の運営に係わる重要事項を審議決定するため運営小委員会を設置する。運営小委員会は正・副部長1名および若干名の委員からなる運営委員によって構成される。正・副部長および運営委員は部会員の中から部会員の直接選挙で選ばれる。正・副部長及び運営委員の選挙にあたっては、部会長の指名する選挙管理小委員会を設ける。運営委員の任期は4月から翌々年3月までの2年間とする。ただし再任を妨げない。



(改定案)

第6条 部会の運営にかかわる重要事項を審議決定するため運営小委員会を設置する。運営小委員会は部会長1名、副部長および運営委員若干名によって構成される。部会長および運営委員（副部長含む）は部会員の中から部会員の直接選挙で選ばれる。部会長および運営委員（副部長含む）の選挙にあたっては、部会長の指名する選挙管理小委員会を設ける。  
(以下 略)

# 部会規約、運営小委員会内規の改定

要承認

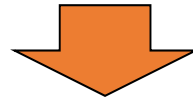
## 複数名の副部会長選出の選択肢追加等(2/2)

(現在の運営小委員会内規)

第2条 運営小委員会は部会長と部会長以外の運営委員約20名で構成する。

2 運営小委員会は、以下の各号に掲げる担当運営委員を設ける。

- (1) 部会長
- (2) 副部会長
- (3) 庶務担当委員 (以下 略)



(改定案)

第2条 運営小委員会は部会長と部会長以外の運営委員約20名で構成する。

2 運営小委員会は、以下の各号に掲げる担当運営委員を設ける。

- (1) 部会長
- (2) 副部会長 (2名以内)
- (3) 庶務担当委員 (以下 略)

## ADSによる核変換用MA燃料再処理技術の 最新動向

(2015年 9月11日(金) 13:00~14:00, G会場)

座長 鈴木 達也 (長岡技術科学大)

- ADSによる核変換技術  
辻本 和文 (原子力機構)
- マイナーアクチノイド核変換用窒化物燃料の  
乾式再処理研究の現状  
林 博和 (原子力機構)
- 総合討論